

一般質問

・不登校支援について



櫻井 勝

問

全国的に不登校の児童生徒が増加傾向の中、一人一人に光をあてた教育、誰一人取り残されない教育を推進するため、不登校支援に関し本市の現状、取組について伺う

答

本市の不登校の児童生徒数は、年度により増減はあるものの、全体的に増加傾向にあり、その原因もいくつかの要因が複雑に絡み合っております。各学校では、個別にケース会議を開き、保護者や関係機関と連携を図りながら、課題解決に向けて取り組んでいます。主な取組につきましては、不登校児童生徒への直接支援として、御前崎市適応指導教室「サンルーム」を設置し、支援員を3人配置して個々の不登校児童生徒に対する自立支援を促し、個別支援を充実させ、児童生徒の学びの場を確保しております。



問

不登校の子どもを支援していく上で、一人で悩みを抱え込んでいる保護者への支援について伺う

答

不登校児童生徒の保護者のみならず、子どもを育てている保護者にとって、子育てにおける悩みは尽きません。悩みを抱えている保護者が気軽に相談しやすい環境づくりに努め、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが保護者を支援できるように、相談体制をより一層強化します。また、県の相談機関や福祉課、子ども未来課などと連携を図りながら保護者支援に努めてまいります。

一般質問

・小・中学校におけるスポーツ活動の今後の在り方について



植田浩之

問

近年、少子化は驚くほど進んでいます。スポーツ少年団では学校単位でチーム編成ができず、中学では部活動が存続できない学校も発生しています。今後、さらに生徒数の減少は避けられない状況です。また働き方改革と言われる現在、煩雑化している教育現場の中で、休日を含めた運動部活動の指導など、教員にとって大きな負担になっていきます。

答

御前崎市のスポーツ少年団、地域移行に向かう中学の部活動、これに関わる指導者の選任など、今後の在り方及び方向性を伺う

答

本市の部活動地域移行については、令和4年度から地域移行準備委員会の開催、保護者・児童生徒に「部活動と地域移行について」のアンケートの実施、地域移行検討委員会を行うなど準備を進めています。中学校部活動については、令和8年夏の中体連が主催する大会までは実施しますが、それ以降の活動については、近隣市と情報を共有しながら検討

問

を進めています。今後、スポーツ少年団から中学生年代を地域クラブ活動へ、しっかりとつなげていくよう検討を重ねていきます。

問

来年度よりスポーツ少年団がグラウンドを利用する場合、料金が発生することになっているが、中学の部活が地域移行になった場合も同様か

答

使用料の取り扱いを含め、検討しております。

問

地域移行する中で指導者に対して費用弁償、報酬などは発生するか

答

部活動検討委員会などにおいて、他市の取組事例を参考に部活動指導員、外部指導者の配置も検討しています。部活動指導員とは、教員以外の一般の方が報酬を得て指導します。外部指導者は補助的な役割を担いますが、単独での指導はできません。